

平成28年6月3日
九州地方整備局河川部

熊本地震に伴う緑川水系緑川ダム洪水対策について

熊本地震の影響で緑川水系においては、多くの箇所では堤防の被災が発生し、応急復旧は行っているものの、通常の水防警報及び洪水予報の基準水位を1ランク引き下げて運用^(※1)しております。これからの梅雨や台風に備え、緑川ダム下流河川の負担軽減を目的に、緑川ダムでより多くの洪水を貯留する暫定運用を実施することとしましたのでお知らせします。

【緑川ダムの洪水対策】

- 対策1 洪水時により多くの洪水を貯留するため、洪水調節容量を約500万m³増強します。(2,400万m³→約2,900万m³)
この約500万m³は、かんがい利用者のご理解とご協力のもと、かんがい用水の一部を洪水調節容量として暫定的に活用するものです。
- 対策2 ダムからの最大放流量を通常の毎秒2,000m³から毎秒1,500m³に引き下げ、下流河川の負担軽減を図ります。^(※2)

(※1)平成28年5月18日発表「緑川・白川等の復旧状況について【第3報】」をご参照下さい。

(※2)洪水の状況によっては、通常の実行を行う場合もあります。

記者発表に関する問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 緑川ダム管理所
所長 ^{にし}西 ^{やすゆき}保幸
TEL 0964-48-0216 (内線 201)

国土交通省 九州地方整備局 河川部河川管理課
課長 ^{みつざき}満崎 ^{せいや}晴也
TEL 092-471-6331 (内線 3751)

熊本地震に伴う緑川ダムの洪水対策について

位置図



熊本地震の影響で、緑川水系においては、多くの箇所では堤防の被災が発生し、応急復旧は行っているものの、通常の水防警報等の基準水位を引き下げて運用しております。

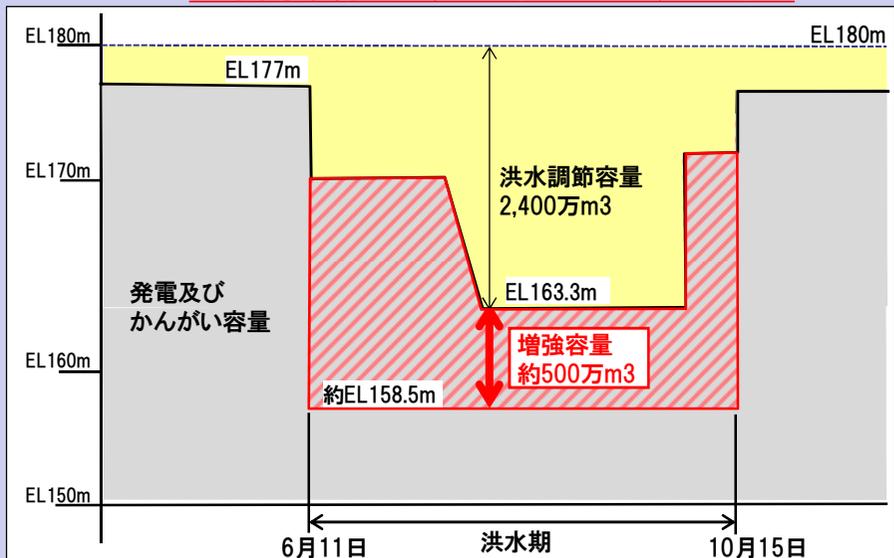
このため、これからの梅雨や台風に備え、緑川ダムでは下流河川がより安全となる2つの洪水対策を実施いたします。



対策1

洪水時により多くの洪水を貯留するため、洪水調節容量を、約500万m³増強します。この約500万m³は、かんがい利用者のご理解とご協力のもと暫定的に活用するものです。

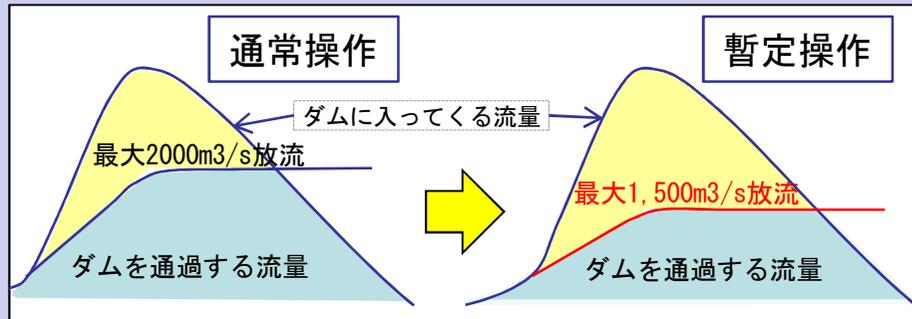
洪水調節容量 2,400万m³ → 2,900万m³



対策2

緑川ダム下流の状況を踏まえダムからの最大放流量を引き下げ、下流河川の負担軽減を図ります。

最大放流量 2,000m³/s → 1,500m³/s



※出水の状況によっては、通常操作で行う場合もあります。